令和７年５月２９日

令和６年度　特別の教育課程の実施状況等について

青森　都・道・府・県

学　校　名	管理機関名	設置者の別
田舎館村立田舎館小学校	田舎館村教育委員会	公立

１．特別の教育課程を編成・実施している学校及び自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学　校　名	自己評価結果の 公表ウェブサイト名・URL 等	学校関係者評価結果の 公表ウェブサイト名・URL 等
田舎館村立田舎館小学校	参観日資料	訪問資料

※結果公表に関する情報について、ウェブ上で公開している場合は公開しているウェブページの URL、ファイル名等を記入すること。ウェブ以外で公開している場合は、公開している情報を閲覧できる場所・方法等を適宜記入すること。

※必要に応じて行を追加すること。

２．特別の教育課程の内容

（１）特別の教育課程の概要

①　全学年において「国際科」の時間を設定

ア　第１、２学年は「生活科」の一部の時間を充てる。

イ　第３、４学年は「外国語活動」のすべての時間と「総合的な学習の時間」の一部を充てる。

ウ　第５、６学年は「外国語」のすべての時間と「総合的な学習の時間」の一部を充てる。

②　６年間で学習する内容を見越した系統的な学習過程の作成と実施

（２）学校又は地域の特色を生かした特別の教育課程を編成して教育を実施する必要性

田舎館村は青森県津軽地方の中央に位置し、田んぼをキャンパスに見立てて７色の稲で絵を表現する「田んぼアート」が全国的に有名である。このことは、今や国外からも注目を浴びるようになっている。

このような環境の中、田舎館小学校では、英語を通して多様な人々と積極的にコミュニケーションをとることのできる児童の育成を目指している。また、英語の習得については、保育園から取り組んでおり、保小中で継続した学びとなるよう計画的に実施している。

学習指導要領では、小学校３、４学年で外国語活動、小学校５、６学年で外国語を学習することが示されているが、保小中の円滑な学びの継続と学習の積み重ねを目指し、

本校では、小学校１学年から国際科を設定して学習している。

（３）特例の適用開始日

平成２７年４月１日

（４）取組の期間

令和６年４月１日～令和７年３月３１日

３．特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

（１）特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

⊙計画通り実施できている

・一部、計画通り実施できていない

・ほとんど計画通り実施できていない

（２）実施状況に関する特記事項

※（１）で「一部、計画通り実施できていない」又は「ほとんど計画通り実施できていない」を選択した場合は、必ず記載する。

（３）保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

⊙実施している

・実施していない

＜特記事項＞

学校だよりや学年、学級だより等で児童の学習の内容を紹介したり、参観日で授業を見ていただいたりするようにしている。また、教育向上アンケートでも国際科に関してとりあげ、その結果を参観日や教育委員訪問にて報告している。

４．　実施の効果及び課題

（１）特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している学校の教育目標との関係

本校では、教育目標として「まなぶ子」「やさしい子」を設定し、学び方を身に付け、基礎学力を養うこと、コミュニケーション能力を身に付けることを学校課題として取り組んでいる。国際科を設定することで、知識としてだけの英語ではなく、異文化について理解する機会になるとともに、人と人がコミュニケーションするためのツールとしての必要性を実感することができている。このことは、本校が目指す「まなぶ子」「やさしい子」を育てるための一助となっている。

課題として、英語の必要性は感じているが、日常生活の中で学びを生かすまでには至

っていない。このことは、児童、保護者、教員による教育向上アンケートからも学んだことを他の各教科等に生かす必要性が指摘されている。

（２）学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

本特例を継続的に実施してきたことで、本校児童の外国語に対する意識は高く、どの学年においても、ＡＬＴに英語で積極的に話しかける姿が多く見られる。また、早い時期から英語に触れていることから、比較的英語を聞き分ける能力が育っている児童が多くみられる。

今後、さらに検討していくべき内容としては、高学年の学習内容に取り上げられている「書くこと」の国際科における位置付けと中学校の学習につながる指導方法が挙げられる。

５．課題の改善のための取組の方向性

４に示すような課題を踏まえて、学習したことが日常生活の中でどのように生かされているのか、どのように結びついているのかについて職員で共通理解し、その活動の意義を児童に指導しながら他の教育活動でも外国語によるコミュニケーションを充実させていくことが大切である。

また、幼児期での学習内容、そして中学校での学習内容を把握し、系統づけた教育課程の構築を進めることも必要である。保小中の情報共有の場を大切にしながら、校種を超えた連携を進めつつ、教員の授業力向上による授業改善を目指した研修を推進していきたい。